

食道癌術後7年目の肺転移に重複した小細胞肺癌切除例の一例

桑原 元尚¹⁾ 二見喜太郎²⁾ 永川 祐二²⁾
高山 成吉²⁾ 岩下 明德³⁾ 岩崎 昭憲⁴⁾
白日 高歩⁴⁾ 有馬 純孝²⁾

¹⁾天草中央総合病院外科

²⁾福岡大学筑紫病院外科

³⁾福岡大学筑紫病院病理部

⁴⁾福岡大学医学部第二外科

要旨：小細胞肺癌と食道癌肺転移の重複癌を経験したので報告する。症例は60歳台 女性，1996年腹部食道癌の診断で右開胸開腹で食道亜全摘術を施行した。術後病理は高分化扁平上皮癌で腹腔動脈周囲，胸部気管リンパ節に転移を認め，術後化学療法としてCDDP+5FUを5クール投与した。術後7ヶ月目右頸部リンパ節再発に対し，摘除後局所に放射線治療を追加した。2002年3月胸部CTで右下肺野に転移性腫瘍を疑い，化学療法CPT-11+CDDPを5クール行った。一時的に縮小したが，再増大を認め手術適応となった。2003年4月開胸術施行，右下葉に二個の腫瘍および臓側胸膜直下・下葉気管支周囲のリンパ節の転移を認められ下葉切除術を施行した。組織所見で二つの腫瘍は各々転移性扁平上皮癌，小細胞肺癌であり重複癌と診断した。小細胞肺癌に対する化学療法を行うも，縦隔リンパ節転移が悪化し術後7ヶ月で死亡した。

索引用語：食道癌，転移性肺腫瘍，小細胞肺癌，重複癌